

# 民主島根

2023年  
**6.4**  
第1426号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444  
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

## カルテル、顧客情報の不正閲覧・・・ 島根原発2号機再稼働するな 党県議団らが中電へ申し入れ

中国電力が事業者向け電力販売を巡ってカルテルを結んでいたとして公正取引委員会から707億円の課徴金納付を命じられたことや、子会社が新電力の顧客情報を不正閲覧していた問題で、日本共産党県議団は5月18日、「法令軽視の企業体質を持つ中電に原発を動かす資格はない」として島根原発2号機の再稼働を断念するよう申し入れました。



申し入れる尾村県議(左から5人目)と(左へ)大國県議ら(松江市)

「原発ゼロをめざす島根の会」は5月18日、丸山達也知事に対し、国の原発回帰の方針転換に反対するとともに、島根原発2号機の再稼働同意は撤回するよう要請しました。

「原発ゼロをめざす島根の会」は5月18日、丸山達也知事に対し、国の原発回帰の方針転換に反対するとともに、島根原発2号機の再稼働同意は撤回するよう要請しました。



要請する岡崎共同代表などゼロの会のメンバーら(島根県庁)

中国電力が事業者向け電力販売を巡ってカルテルを結んでいたとして公正取引委員会から707億円の課徴金納付を命じられたことや、子会社が新電力の顧客情報を不正閲覧していた問題で、日本共産党県議団は5月18日、「法令軽視の企業体質を持つ中電に原発を動かす資格はない」として島根原発2号機の再稼働を断念するよう申し入れました。

中国各県の日本共産党は5月19日、一斉宣伝に取り組み、大軍拡、悪政強行の岸田政権と自民、公明、維新、国民の「悪政4党連合」に対決し、国民的共同を呼びかけました。松江市では、尾村利成県議らが演説しました。(写真)



日本共産党島根県委員会は5月25日、大田市で全県地方議員団会議を開きました。地方議員や機関役員ら23人が参加しました。(写真)

### 暴走する岸田政権を解散に追い込もう

大平 元衆議院議員 駆けつけ、全県地方議員団会議

日本共産党島根県委員会は5月25日、大田市で全県地方議員団会議を開きました。地方議員や機関役員ら23人が参加しました。(写真) 上代善雄県委員長は総選挙を大軍拡阻止のたたかいで岸田政権を解散に追い込み、大軍拡に審判を下す選挙にするとともに「130%の党づくりの努力を貫きながら6月解散でもたたかえる態勢を確立しよう」と呼びかけました。

鼓動 本欄執筆も含め、日々の生活の中で、文章を書く機会を得ていることを感謝している。なぜなら、文章を書くことは修行のようなものであり、少なくとも書かないよりは、はるかに自らを成長させてくれる行為だと思ふからだ。▼実際、本コラムの執筆においても、試行錯誤しながらのテーマ設定や、切り口を決めて書き始めるまでが既に自問自答の修行である。そして書き始めたら始めて、自分の思いが誤解されずに伝わる表現をいかに見つけ出せるか。その模索する過程自体が行きつ戻りつの自己鍛錬のようだ。▼つまり、筆者にとって「文章を書く」ことは、自分自身を客観視する作業であり、言語化しなければそのまま自覚されなかったであろう思考や感情、認識をカタチにするという行為、文字化された自分自身だと実感し、そう、定義する▼さて、この「文章を書く」という行為を取り上げるからには、話題の対話型人工知能(AI)「チャットGPT」に触れないわけにはいかない。これは、質問すると、文章で表現できることなら僅かな時間で何でも答えてくれるというアプリだ。手紙や企画書、感想文、要約の作成まで守備範囲は広い。試みに、「文章を書く」ことをどう定義するか問うてみたが、残念ながら、想定内のありきたりな回答であった。何より「らしさ」がない▼表現するとは、その表現主体に備わる感性や、事柄への共感力、「らしさ」と一体のものだろう。事務作業の効率化に寄与すると言われながら、懸念事項の多いこのアプリ。未だAIが及ばぬ領域は、確かに健在であることを感じ、少し安堵するのだった。(江)